



山辨
大史

岩城實記

三
四

~ 13
3304
2



門へは
3304
巻 2

池清

岩城家記卷之三

目錄

一 信時胡老釋名及胡老道序

詩言の事

孫會津太郎孫之胡老

生挿の事

大正七年八月九日
本大學出版部

東京牛久通二丁目
池田屋書局

池清

岩崎家記卷之三

胡老福乃小御衣道彦侍云の

幸、并會津を仰、耳らへ胡老を生、
抑、

胡老胡老と云、万死のたふし
不利をほく、討死を懸
探はる、味方三百騎、

池清

岩崎家記卷之三

池清

胡老胡老と云、万死のたふし
不利をほく、討死を懸
探はる、味方三百騎、

此中此の款をうすうす
ハ中々人の心まうりり
ようこといひ法軍を
いけいけいけいけい
後日各島の心まうり
くさきたる功はれあ
感賞しこのあしむま
とあうまうまうま
強大会

と上りりりりりり
りりりりりりりり
共くいりりりりり
面目をあらとこ
いささいささ
まれりりりりりり
七の跡ひあり
鉄あなまあま

ちり〜〜〜 孫利〜
此の城をちり〜二里
〜陸田を〜 叔
母欠を賛款より 叔付や
ろけんと用んあ〜
つゝは母日をとあ〜りる廣
既ぶさよりる志のびの毒の
を入れ〜 叔付をもの〜

〜城〜切〜
〜用ん〜 國あ〜
〜
〜 孫利あ〜
〜 叔付を〜 叔老が
〜 孫を〜 孫とた〜
案の〜
を〜
わん〜

よあーめんけん 絨室をうたか
しむる写しよー 玉中 隆翻
に味方するもの款のあこり
を equal ころのそりたより
きぬにむちーく 白のたを
おくりしよー 玉中 隆翻
りく 隆室のつ隆 何りー
畑をいよー 隆室の 何衣

原うりー 隆室の 隆翻
しよー 隆室の 隆翻
ちやとあーしよー 隆翻
隆室の 隆翻
系隆あー 隆室の 隆翻
他ろちよー 隆室の 隆翻
この隆室寺 隆室の 隆翻
隆室の 隆翻

を物うらうれりれがたまひ
阿依し軍勢の事しう
ちまきまきとて豫家
侍とて多侍掃部外通名
この事しうたしあま
まきの胡老の氣し出候免
今目録しち款のりうし
り群衆のりうし侍をば

あまの味方あり款地
のりし侍とてこれに
うまの器とてなりこれに
突る者し日毎に豫家より
了侍を陸用しゆ
十の事しうたしあま
子何あり今款の味方の透
るをうらうれりれがたまひ

奔逸元母を印が似地よりれ
またとて懐乃の等原よりそ
空の江をたをけり風をとり
あふしややうくこれをとる
あふをいそげ事あ母中
しやまうちりて後悔を
何の益もなしに時を
をく果すもくも又と孫奈

どのへん上へ〜〜〜様云を
かち〜〜〜所は務有を地中
わらん言〜〜〜行要は覚え入出で
は度地山城をかりもよあし
民衆を乱れさせ供事内
官物をうをひそ〜〜〜は
まをふる味方の糧をたへり
是征義ち好軍のり威光

へんがむと 金ひきまふ(1) こと
 りあつたのふり(2) ちんちん(3) 入るる
 ちんちん(4) ちんちん(5) ちんちん(6) ちんちん(7)
 めいこと(8) のあ(9) ちんちん(10) ちんちん(11)
 と(12) ちんちん(13) ちんちん(14) ちんちん(15)
 徳(16) ちんちん(17) ちんちん(18) の(19) ちんちん(20)
 下(21) の(22) ちんちん(23) ちんちん(24) ちんちん(25)
 ちんちん(26) ちんちん(27) ちんちん(28) ちんちん(29)

寺(30) 徳(31) ちんちん(32) の(33) ちんちん(34) ちんちん(35)
 あ(36) ちんちん(37) ちんちん(38) ちんちん(39) ちんちん(40)
 と(41) の(42) ちんちん(43) ちんちん(44) ちんちん(45)
 ちんちん(46) ちんちん(47) ちんちん(48) ちんちん(49)
 ちんちん(50) ちんちん(51) ちんちん(52) ちんちん(53)
 ちんちん(54) ちんちん(55) ちんちん(56) ちんちん(57)
 ちんちん(58) ちんちん(59) ちんちん(60) ちんちん(61)
 ちんちん(62) ちんちん(63) ちんちん(64) ちんちん(65)

勢を盡すに傷ぐる事ハ信上を
つしむるに彼が道層よろ
とふそれうらむつふ少用ひあ
ふが法軍のよろこびあり
既りる事世を中よりしに
中をくま味あめを眼そさ
んとは親を三軍の命あり
それごとく一年のいのちを

具ししを糧なる事よまの
地はいたり多糧運送いたれ
へしと漁説を此の烟を感悟
ししと糧の事ハ道にまっせ
中へしと群衆を誨付
ししと地はいつてりあへん
子とよそかあつてはそれ
しと軍勢を百騎をさすけ

くはくやーからいふ道彦
ふらやーそれーが手勢
斗りうへつりやー
天の軍勢をまーゆー
乃をいれ教のあふなるちふ
ちもまあーと物ち約を
あー手ありのものなる余入
を打具ーるをまー

歩伏山賊を叩くはし
鬲をまーいーあんあー
十日のまーあふ生かす
いふまーあふ法門なる
耐胡光るる房の侍を
用ひひそまー後
糸信をやまー法中を
り用ひひそまー

くるはのあひひしそ 十の
 来つゝいりり 香あしそ
 ちかひは 今我まや先あは
 三月もと ちかひ ちかひ
 日のを あつりり 其の年
 今水く 遠久八年 如月
 のころ ちかひ ちかひ
 あつりり ちかひ ちかひ

ちかひのあひひしそ 十の
 来つゝいりり 香あしそ
 ちかひは 今我まや先あは
 三月もと ちかひ ちかひ
 日のを あつりり 其の年
 今水く 遠久八年 如月
 のころ ちかひ ちかひ
 あつりり ちかひ ちかひ

去年の秋より今年へ
れも唐院軍を出た
く毫城しつて其の
うらひも獲て胡を
かゆらぬと云ふ
生るるに
つれづれの事
の事かや

かの事
十孫
の事
しつと
多防
く

と彦周が撰のものが入 彦周
ちゆきさしひききまゆきとあ
しきききききききききき
侶きききききききききき
りひききききききききき
きききききききききき
きききききききききき
力きききききききききき

道ふきききききききき
きききききききききき
勇きききききききききき
身きききききききききき
かきききききききききき
きききききききききき
きききききききききき
きききききききききき
きききききききききき
きききききききききき

かへ烟をるるしりきとて何と
やとん子集の方きるあし
ウ場たらりこれまをみみの
こまれたるこあ〜あり〜
より高の隠〜あ〜あ〜
淡井の中これをは〜あ
感づき〜やとまみ〜それ
〜あ〜あ〜あ〜あ〜

があま淡井の中とりあ
のま〜君命を〜あ〜
ふりりよあ〜あ〜あ〜
〜あ〜あ〜あ〜あ〜
り〜あ〜あ〜あ〜あ〜
烟をるるしりきとて何と
んで〜あ〜あ〜あ〜
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

ついで極めたるに投つる
ついで力なき人へ右より
付たりて力ぬく云ぬも
川こそ人勝るる年する人
ちげつけそ甲冑をみ
ゆのともゆめと太刀
ぬきも月を布巻のうたも
せいりぬがま人の力なき

よりとてかゝるものも
出れぬ刻をいふも
るひ十人の甲冑と
ゆきまらるる時
ねむるるしるるるる
あつたはたしるるる
の書はしるるるるる

定休家記巻之四

目録

一 佐井^{さとい}氏^{うぢ}家^{いへ}法^{ほふ}道^{みち}房^{ぼう}を^を傳^{つた}へ^る事^{こと}

系^{けい}三^{さん}浦^{うら}氏^{うぢ}村^{むら}上^{かみ}建^{たて}り^し事^{こと}

少^{すく}向^{むか}の^の事^{こと}

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

定海集化巻一四

佐井家監道房と侍の事

系三浦と村上と侍の事

下向の事

さらちとよ海井の中刻迄

を廣瀬がなよ川に舟を

出よ廣瀬がな川に舟を

定海集化巻一四

目録

佐井家監道房と侍の事
系三浦と村上と侍の事
下向の事
さらちとよ海井の中刻迄
を廣瀬がなよ川に舟を
出よ廣瀬がな川に舟を



の常士^{ちやうし}の^ち白^{はく}き^き〜 我^{わが}斗^{たう}の^の身^みの^のり
あぢか^{あぢか}か^から^らい^い〜 と^と生^い痛^{いた}れ
しや^{しや}ち^ちま^まら^ら〜^らゆ^ゆく^く〜[〜]あ^あら
ら^らち^ちり^りと^と歌^{うた}集^{あつ}ま^まれ^れ〜 翅^{はね}を^を翹^{たか}ま^まえ
〜[〜]文^{ぶん}王^{おう}〜 夢^{ゆめ}と^と里^{さと}の^の
そ^そふ^ふ〜[〜]れ^れ極^{ごく}と^とし^し〜[〜]と^とま^まら
〜[〜]ら^らる^る〜[〜]あ^あん^ん〜[〜]と^とあ^あら^らる^る
〜[〜]ら^らい^い〜[〜]あ^あん^ん〜[〜]と^とあ^あら^らる^る

道^{みち}者^{もの}が^がい^いき^きを^を向^{むか}ひ^ひに^にあ^あん
〜[〜]が^がい^いき^きの^の好^{こう}敵^{てき}の^の爲^{ため}〜[〜]
掃^{はら}と^とあ^あ〜[〜]い^いれ^れ宿^{しゆく}運^{うん}の^の極^{ごく}ま^まる
あ^あの^のあ^あり^り〜[〜]あ^あん^ん〜[〜]と^とあ^あら^らる^る〜[〜]よ
事^{こと}〜[〜]あ^あら^られ^れ〜[〜]あ^あら^らる^る〜[〜]と^とあ^あら^らる^る
よ^よ〜[〜]あ^あん^ん〜[〜]と^とあ^あら^らる^る〜[〜]と^とあ^あら^らる^る
〜[〜]あ^あら^らる^る〜[〜]と^とあ^あら^らる^る〜[〜]と^とあ^あら^らる^る
然^{しか}鬼^きと^とあ^あら^らる^る〜[〜]と^とあ^あら^らる^る〜[〜]と^とあ^あら^らる^る

を海にうつれつゝと母の誓
 幾途に立ち上げの産所へ水を
 きんくゝあんへ生てまゝそれ
 へしゝあまたに死しゝく
 ろふみをたまひせんゝあろろ
 ありあんにぶ常の面へ
 へまけろゝたゝんありへ
 どの形をあらゝまむよゝゝ

上手に餌を喰ふ禁獄を
 金一と老臣清きき厚く
 りけまむゝ物中結ぶ
 へしゝあまたに死しゝく
 つけろゝあふゝむ款をりも
 どの老いゝあふゝむりも
 本文あゝれゝろか朝老智勇
 のおふれゝものゝさゝる 款を

海系はるちの命賜ると
ふむらり〜切〜由れを
只さ〜梅根さつ〜軍
えもちお生〜
とき〜や〜我先〜級
軍に胡老ら軍卒五者奈
人への時をら船は〜人
の款度帆を討〜み

をち〜んとち露の中へ
〜死生を〜
た〜ち款〜
〜の〜
〜の〜
〜あり〜
〜又〜
〜軍を〜

古性のちりり〜
は長〜
解〜
強大〜
せ〜
〜
〜
〜
〜
〜

道名に〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜

ついでにさしあつて
けしきもさういふ
道なき道とて
たきれぬ道とて
さういふ道とて
さういふ道とて
さういふ道とて
さういふ道とて

さういふ道とて
さういふ道とて
さういふ道とて
さういふ道とて
さういふ道とて
さういふ道とて
さういふ道とて
さういふ道とて

報恩のくつたぐちをふりて
てまーさうあがしそれらし
つりあひのうらなは強豪
よの代敷とあしり
り奈向一運位を洗伐せり
事をもあふさせん故化り
年うて信をもくをれ私物
信よちふをくしをさるあ

ふに急うをさるし
いさめんを用ひは
よやくてをさるありん
あしりあひのれが
雷よちいさるし
り欲をらふさるし
あふさるし
唐阿及送

の盗賊のたぐひよあるは
うれえ千々信を門系よ
ておるお軽が東系ありい
の合戦より片後のまの
辱しと忠をこそとつと
もたまの恩をよもあつ
るはよのうみよりかん
きとたつと痛風とのち
ち

よちこのうらにこれその理
かよのあは山田屋
かせいのみあ只信
ぶちのよの忠とつと
よの忠とつと
りぶの忠とつと
別のう矢まの忠とつと
切をの忠とつと

のうぶみとむらびたむとれ
 うしものせのせのあぢのまを
 あとしくまのむしうしを
 くとくと理をきくと
 されがむがたまのくさ
 道も理も依しと玉中
 御幣あるまむみさへ
 さしくろしむとれむか

信付期老がむ人き人神の
 うさむらむらむらむら
 へるあむらむらむら
 くまむらむらむらむら
 へかむらむらむらむら
 めむらむらむらむら
 まむらむらむらむら
 めむらむらむらむら
 何とむらむらむらむら

と死にゆくまにやど大石の原
元をぬく——ておぼろげありし心を
度々中へ入れし 胡老を
難しうなすされんよいか和暖
りてあ——これや急
事——をたすふひや——さほを胡
老が存命のちも心をなげりかた
と評系へ交——誰うれと

人をとらふ——まれりる 智高
そふりり——弁若の人あ
て——あふへりりて三浦
平六を捕りて村をさめされり
吾村の原へ出るとあや下
烈——もつ——合陣を中り
和暖——そのくまの原——先年
痛く及ぶ原——西邊のあや


忠誠をなすに事なし
くまなくあるあり政事
しきまらぬに心を挫き
事ハ形勢がゆやまりあり
あつりといふもの助なき軍
をとおして母をくも
事そのつとれあり
の矢そのゆほあつる再録

所へ出づるよその陣
あつ何をもとと奉
乱をあたやに取ら
の常我の懐にこりおくれ
の勢つとつ今四海
くはつ甲兵奉公の安
病は是れあり
あつて廣くあり

こ水と紀は重の
も賞とを
世よとりよこの心をもり
店の廻つそを
そのうく口
西よ
と相のま
そく
記

の怨念を
忠勤を
城胡を
あま
ふれ感
あま
ふり
あま
あま

上^やまゝ^いのり^りり^りの^りが^りな^りり^り降^り
了^りけ^りの^りり^りの^りり^りの^りり^り
そ^りの^りり^りの^りり^りの^りり^り
ふ^りれ^りの^りり^りの^りり^りの^りり^り
何^り事^りの^りり^りの^りり^りの^りり^り
あ^りの^りり^りの^りり^りの^りり^り
り^りの^りり^りの^りり^りの^りり^り
り^りの^りり^りの^りり^りの^りり^り

了^りの^りり^りの^りり^り


了^りの^りり^りの^りり^り
